



平成 27 年 1 月 14 日

報道関係者各位

文部科学省「地（知）の拠点整備事業」
原子力災害からの地域再生をめざす ふくしま未来学の展開
平成 26 年度シンポジウム
「地域における学校現場と大学の連携による人づくりの可能性」
開催のお知らせ

日頃から本学に多大なご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

福島大学では、平成 25 年度より文部科学省「地（知）の拠点整備事業（COC）」の採択を受け、特修プログラム「ふくしま未来学」を実施してまいりました。

同プログラムでは双葉郡をはじめとした被災自治体と連携した地域循環型人材育成を進めています。ふくしま未来学の取り組みをさらに加速するべく、シンポジウム「地域における学校現場と大学の連携による人づくりの可能性」の開催いたします。

つきましては、事前の周知と当日の取材をしていただきたく存じます。何卒、宜しくお願い申し上げます。

記

日 時 2015 年 1 月 22 日（木）13 時～16 時

場 所 福島大学 経済経営学類棟 2 階大会議室

内 容 ・記念講演 「離島からの挑戦」ー島まるごと未来をつくる学校ー
島根県隠岐郡海士町長 山内道雄氏
・パネルディスカッション 福島における学校現場と大学の連携

主 催 福島大学

後 援 （予定）

福島県、福島県教育委員会、福島市、福島市教育委員会、伊達市、伊達市教育委員会、
南相馬市、南相馬市教育委員会、双葉地方町村会、福島県双葉地区教育長会

※詳細はチラシをご覧ください

（お問い合わせ先）
福島大学ふくしま未来学推進室事務局
実施責任者：丹波史紀
担当：牧野、北村
Tel 024-504-2850 / Fax 024-504-2849

地域における 学校現場と大学の連携による 人づくりの可能性

日時

平成27年 1月22日(木)
13:00~16:00

・
申込不要
入場無料
・

場所

福島大学 経済経営学類棟 2階大会議室
(〒960-1296 福島市金谷川1番地)

記念講演

ないものは
ない!
今日日本で一番
有名な島

離島からの挑戦 ~島まるごと未来をつくる学校~

島根県隠岐郡海士町長 山内 道雄



プロフィール

島根県海士町長(4期目)。1938年海士町生まれ。NTT通信機器営業支店長、第三セクター(株)海士総支配人を経て、海士町議会議員に当選。2期目に議長就任。2002年町長に初当選。第三セクター(株)ふるさと海士社長を兼ねる。敢えて単独町政を選択し、大胆な行財政改革と地域資源を活用した「守り」と「攻め」の戦略で、離島のハンディをアドバンテージに、島興しに奮闘中である。
著書: 離島発 生き残るための10の戦略(生活人新書・NHK出版)

パネルディスカッション

福島における学校現場と大学の連携

パネリスト

大熊町教育委員会教育長……………武内 敏英 富岡町・保護者……………遠藤 絹子
東日本大震災復興支援財団専務理事…荒井 優 福島大学人間発達文化学類教授……………中村 恵子
内閣府参事官……………井上 博雄

コーディネーター

福島大学人間発達文化学類教授……………中田スウラ

開催趣旨

福島大学では平成25年度より文部科学省「地(知)の拠点整備事業(COC)」の採択をうけ、特修プログラム「ふくしま未来学」を実施してまいりました。同プログラムでは双葉郡をはじめとした被災自治体と連携した地域循環型人材育成をすすめています。その中で、高等教育機関である大学と初等中等教育の学校との連携をいかに図るかを考えるシンポジウムを開催いたします。双葉郡の小中学校で行われてきた「ふるさと創造学」の取り組み、さらに来年度開校をめざす「ふたば未来学園」による独自の教育プログラムによって、ふくしまの新しい教育の可能性がめざされています。福島大学では創造的復興教育として双葉郡の教育現場や地域と連携し、その実現に寄与してきました。

この度は、島根県海士町における「離島からの挑戦」と題し、海士町長の山内道雄様に記念講演をしていただきます。

また、パネルディスカッションでは大学と双葉郡をはじめとする学校現場が連携し、地域で一貫した人づくりのあり方について議論しますので、ぜひ、ご参加ください。

パネリスト



武内 敏英

大熊町教育委員会教育長

1944年生まれ、大熊町出身。福島大学教育学部を卒業後、富岡町立富岡第一中学校教諭、福島大学教育学部附属中学校教諭、浪江町立津島中学校長、福島県教育センター教育相談部長などを経て、1997年4月大熊町立大熊中学校長に着任、2002年10月より現職。2013年4月から双葉地区教育長会長、福島県町村教育長協議会副会長も務める。著書「大熊町学校再生への挑戦」(かがわ出版)



荒井 優

公益財団法人 東日本大震災復興支援財団 専務理事

2011年3月22日に孫社長と共に福島入りしたことがきっかけとなり、復興支援のための公益財団設立を担う。現在は、月の半分近くを福島で過ごす。早稲田大学在学中の1995年に第5回YOSAKOIソーラン祭りの実行委員長を務め、全国行脚を行う。その時に出会った多くの仲間が今回の復興に関わっていることに勇気をもらっている。

井上 博雄

内閣府参事官

1970年東京都生まれ。東京大学法学部、ハーバード大学ケネディ行政大学院卒業。3人の小学生の息子の父。東日本大震災が生じた2011年3月には経済産業省で人事を担当、被災市町村への職員派遣制度の導入等に取り組んだ。その後、2012年8月、志願して現職に就いて以降、福島復興に少しでも貢献すべく、週の半分は現地にて、住民の方々や現場の方々との対話集会、そこで見出された課題への対応策の実現等に取り組んでいる。



遠藤 絹子

富岡町・保護者

宮城県気仙沼市出身。1992年、仕事を機に富岡町に移住する。知的障害児施設、老人ホーム、幼稚園教諭、富岡町で社会教育指導員を経て、現在、富岡町社会福祉協議会おだがいさまセンターで生活復興支援業務に携わる。高3、高1、小6の子どもの母親であり、学校のPTA活動にも積極的に関わっていた。高3の長男は、双葉郡内のサテライト高に通学のため、いわき市内で祖父母と暮らしており、震災で家族は離散した状態である。



中村 恵子

福島大学人間発達文化学類教授

1991年4月に福島大学教育学部に着任し、2011年4月より福島大学人間発達文化学類教授。専門は食物学(調理科学)。震災後、人間発達文化学類の「東日本大震災教育支援プロジェクト 子ども支援プログラム」に関わり、避難所・仮設住宅における遊び・学び支援や大学で実施している「土曜子どもキャンパス」を、多くの学生とともに取り組む。現在は教職大学院の設置について検討・準備している。

コーディネーター

中田 スウラ (福島大学人間発達文化学類教授)

お問い合わせ先 福島大学ふくしま未来学(COC)推進室事務局(福島市金谷川1番地)
TEL: 024-504-2850 E-mail: miraigaku@adb.fukushima-u.ac.jp